

# 楓沢のコケ類

2022年7月2日  
自然公園財団支笏湖支部

## ■ 概要

モラップ地区は、千歳市街地に1km近い降下軽石を積もらせた元文4（1739）年7月の樽前山大噴火の火砕流堆積物によって形成され、そこには4つの涸れ沢があります。苔の回廊は、最も西側に位置する楓沢の一部です。函状の涸れ沢で下段（約500m）と上段（約300m）に分かれています。

函状地形は火砕流堆積物が冷却した後、土石流による浸食によってできたと考えられています。函状地形は火砕流堆積物に由来する熔結凝灰岩からなっており保水力の高い岩質であるため、コケ群落は岩に浸透した雨水、地下水と湖からの湿気（霧）によって涵養されています。

また、函内が涼しいのは、壁面間の幅が狭く、壁が切り立っていることや壁の上に樹木が生い茂っていることから日照時間が短くなっており、さらに、洞門を構成する弱く溶結した溶結凝灰岩に浸透した水分が凍った状態が長く続くため、洞門全体が冷蔵庫のような状態にあると考えられています。

函周辺には森林が広がっており、沢幅が数mと狭いため兩岸の岩壁上面の樹木により林冠が閉じ、湿度が保たれています。コケ群落はこれらの良好な自然環境により維持されています。

コケについては、下段では下流部がエビゴケ、上流部はスジチョウチンゴケが優占しています。詳しい調査は行われていませんが、支寒内地区の苔の洞門同様100種程度のコケが生息していると考えられています。



エビゴケ



セイタカスギゴケ

■ 0-1

▽クジャクゴケ (砂防ダム)



■ 0-2 函入口手前倒木



▽ヒメハイゴケ



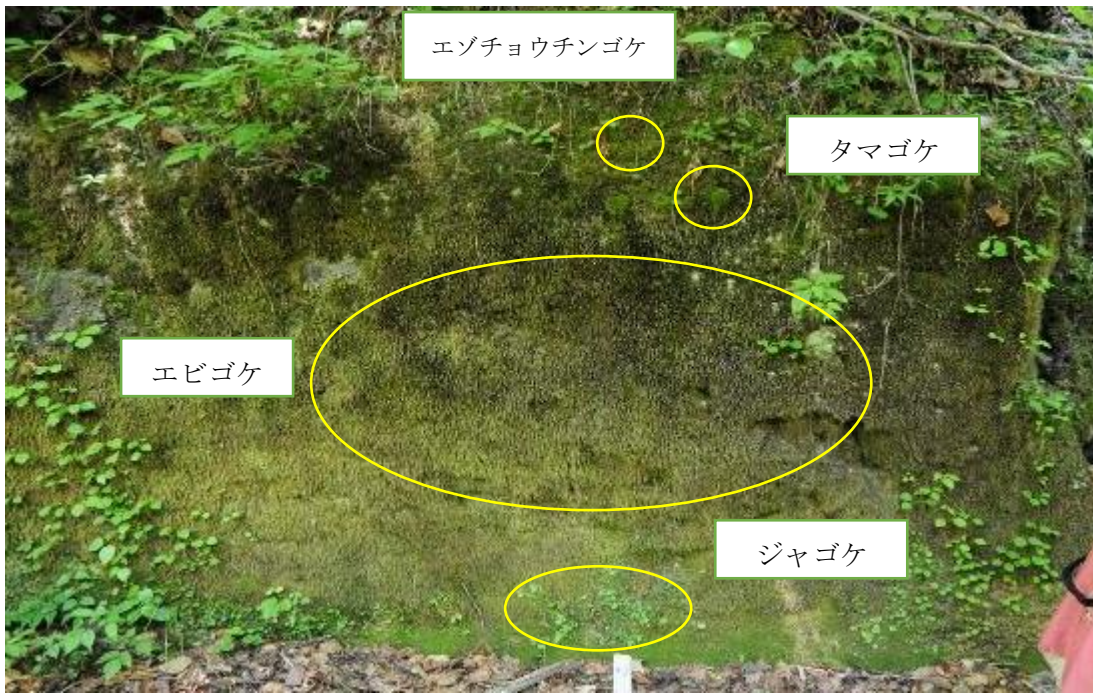
▽スジチョウチンゴケ



▽エゾチョウチンゴケ



■ K-1



▽タマゴケ



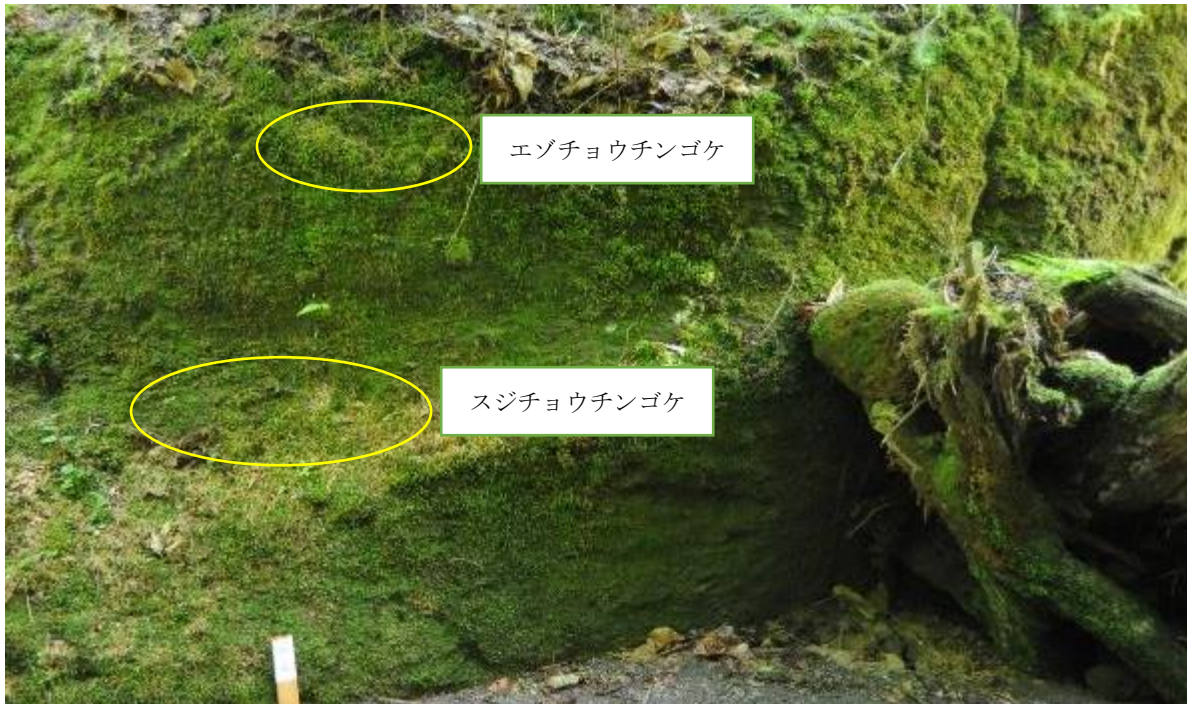
▽エゾチョウチンゴケ



▽ジャゴケ



■ K-2



▽エゾチョウチンゴケ



▽スジチョウチンゴケ



■ K-4





スジチョウチンゴケ



ミヤマサナダゴケ



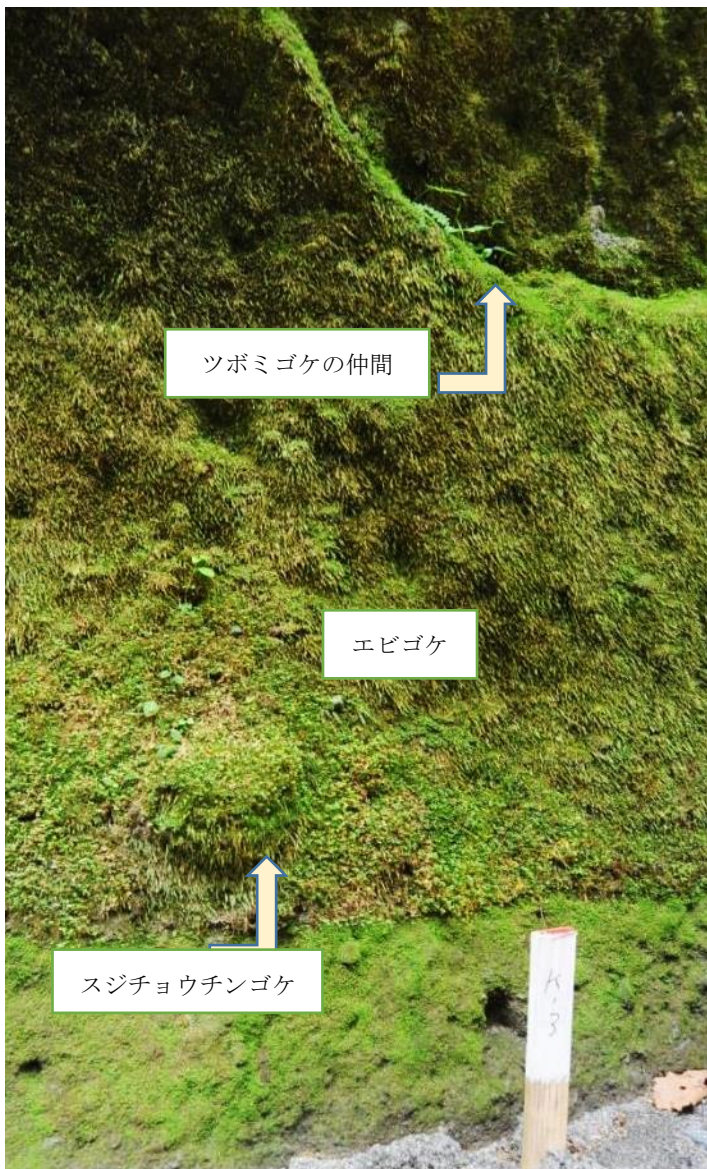
■ 倒木の上



▽クサゴケ



■ K-3

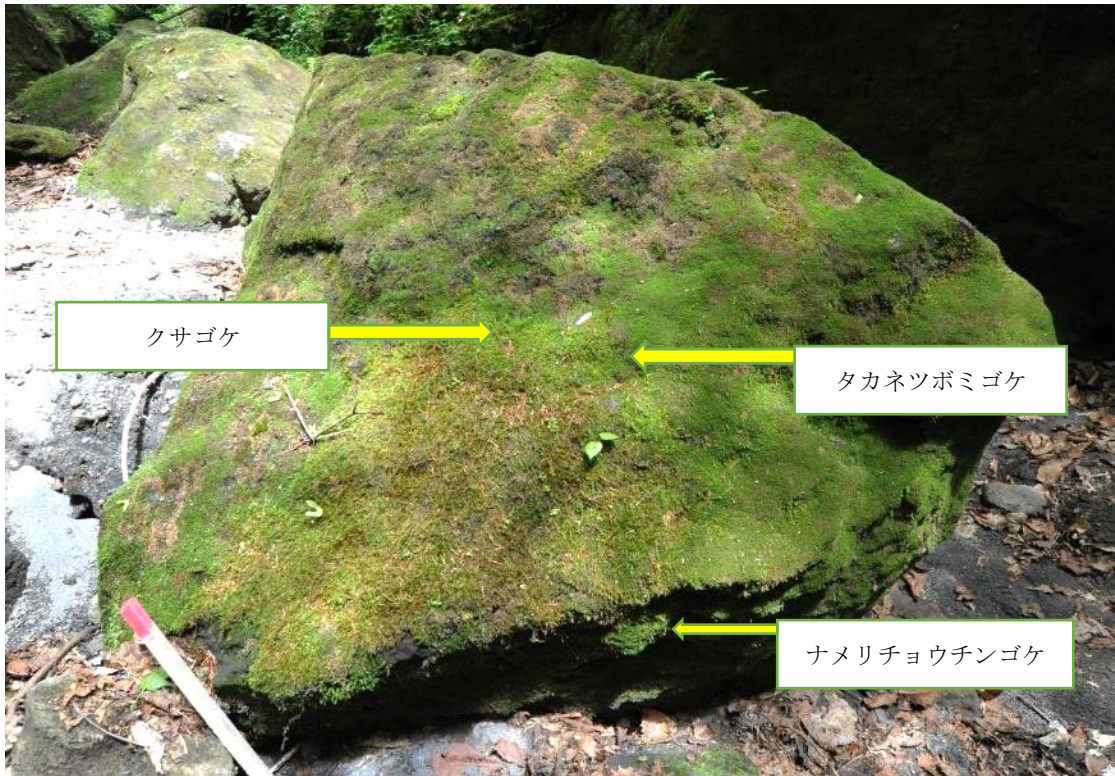


★K-3 から上流二股までは、エビゴケが極端に少なくなりスジチョウチンゴケが優占するようになります。

▽スジチョウチンゴケ



■ 下段終了地点の大岩



▽クサゴケ



▽タカネツボミゴケ



▽ナメリチョウチンゴケ



■ 紹介した蘚苔類の学名

苔類

科名	学名	和名
ソロイゴケ	<i>Solenostoma infusum</i> var <i>ovicajyx</i>	タカネツボミゴケ
ジャゴケ	<i>Conocephalum conicum</i>	ジャゴケ

蘚類

科名	学名	和名
ハイゴケ	<i>Callicladium haldanianum</i>	クサゴケ
	<i>Hypnum oldhamii</i>	ヒメハイゴケ
タマゴケ	<i>Bartramia pomiformis</i>	タマゴケ
チョウチンゴケ	<i>Rhizomnium striatulum</i>	スジチョウチンゴケ
	<i>Trachycystis flagellaris</i>	エゾチョウチンゴケ
	<i>Mnium lycopodioides</i>	ナメリチョウチンゴケ
サナダゴケ	<i>Plagiothecium nemcrale</i>	ミヤマサナダゴケ
エビゴケ	<i>Bryoxiphium norvegicum</i> subsp. <i>japonicum</i>	エビゴケ
スギゴケ	<i>Pogonatum japonicum</i>	セイタカスギゴケ
クジャクゴケ	<i>Hypopterygium flavolimbatum</i>	クジャクゴケ